第３２回　容量市場の在り方等に関する検討会　議事録

１．開催状況

日時：2021年6月28日（月）　10:00～11:00

場所：Web会議

出席者：

秋池 玲子 座長（ボストンコンサルティンググループ マネージング・ディレクター＆シニア・パートナー）
秋元 圭吾 副座長（公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）
市村 拓斗 委員（森・濱田松本法律事務所 パートナー弁護士）
小宮山 涼一 委員（東京大学大学院工学系研究科 准教授）
林 泰弘 委員（早稲田大学大学院先進理工学研究科 教授）
松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）
圓尾 雅則 委員（ＳＭＢＣ日興証券株式会社 マネージング・ディレクター）
穴井 徳成 オブザーバー代理（東京電力ホールディングス株式会社 経営企画ユニット系統広域連系推進室）
石坂 匡史 オブザーバー（東京ガス株式会社　電力事業部長）
加藤 英彰 オブザーバー（電源開発株式会社 執行役員 経営企画部長）
上手 大地 オブザーバー（イーレックス株式会社 経営企画部長）
紀ノ岡 幸次 オブザーバー（関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 企画担当部長）
上坂 喜人 オブザーバー（伊藤忠エネクス株式会社 電力・ユーティリティー部門 電力需給部 部長）
竹廣 尚之 オブザーバー（株式会社エネット 経営企画部長 兼 需給本部長）
松野 泰 オブザーバー（送配電網協議会 電力技術部長 兼 ネットワーク企画室長）
下村 貴裕 オブザーバー（資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 政策課 電力産業・市場室長）
佐久間 康洋 オブザーバー(資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギーシステム課 課長補佐)
中島 亮 オブザーバー（資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギーシステム課）
住田 光世 オブザーバー代理（電力・ガス取引監視等委員会事務局　取引制度企画室 課長補佐）

欠席者：

安念 潤司 委員（中央大学法科大学院 教授）

議題：

メインオークション募集要綱に関する意見募集結果について
事業者説明会状況とメインオークション関連のスケジュール状況の報告
約定処理の概要について（本年度版の報告）

資料：

（資料１）議事次第
（資料２）委員名簿
(資料３) メインオークション募集要綱に関する意見募集結果について
(資料４) 事業者説明会状況とメインオークション関連のスケジュール状況の報告

（資料５）約定処理の概要について（本年度版の報告）

2. 議事

（１）メインオークション募集要綱に関する意見募集結果について

○ 事務局より、資料3に沿って、メインオークション募集要綱に関する意見募集結果について説明が行われた。

［主な議論］

（松村委員）

事務局の提案全てにおいてもっともであり異議はない。そのうえで 11 ページについてコメントする。応札下限を100kW 以上に変更してほしいという要望について、今回のオークションに間に合わないのでこの記載内容の回答で良いが、国の審議会にも参加している本委員会の委員の多くも、参加可能な電源の範囲を広げることが王道と繰り返し発言している。象徴的な応札をし易くする手段であり、今後の検討の参考にさせていただくという記載について、今後検討するが既に 1 度議論されているので今までと同じ議論を繰り返して却下となれば、やる気が疑われかねない。国の審議会であれだけ参加可能な電源の範囲を広げるのが重要という発言が相次いだことを考えれば、下げる方向で、次回以降のオークションでは広げられるように今から整理をしていただきたい。そのうえで事務局から広げる方向と提案されるか、或いは真剣に検討したが難しいとなるか、何れにせよきちんと対応したことが国民にもよくわかるように、事務局でも早急に対応し、今回のオークションの終了直後から検討を始め、次回には間に合うことを期待する。

（小宮山委員）

今回の対応に賛同する。9 ページの設計効率について将来改良により上昇する計画に関しては、電源等情報登録時に事前申請を行うことと記載があるが、実際に効率改善を行う際にはどのように確認をするのか、また、そのプロセスについて現段階で定められているのか確認したい。

（事務局）

松村委員よりご発言のあった 11 ページの応札下限について補足する。意見数を記載しているが、3 事業者から同一意見を複数箇所にいただいたものである。様々な事業者、様々な供給力が容量市場に参加いただけることについては意義があることと認識している。1,000kW の線引きについてこれまでも議論がされてきたが、今年度は間に合わないものの、次年度以降にラインを引き下げる・引き下げない点については、100kW に引き下げることのメリットと併せて、運用面やシステム面の課題も踏まえて、次年度に向けたオークションの見直しのなかで整理させていただく。引き下げることを否定しているものではなく、次年度に向けて検討させていただく。

小宮山委員よりご発言のあった、非効率石炭の設計効率が建設時から変わる可能性がある場合の対応については、事前に電源等情報の登録の際に書類等の確認をし、併せて実需給年度前に設計効率が達成されているのかを確認する。詳細については個々の事例等を対応しながら詰めていく。

（秋池座長）

募集要綱について意見募集により様々な意見やご指摘をいただいた。事務局においては引き続き募集要綱の公表に向けた準備を進めていただく。

（２）事業者説明会状況とメインオークション関連のスケジュール状況の報告

○ 事務局より、資料4に沿って、事業者説明会状況とメインオークション関連のスケジュール状況の報告が行われた。

［主な議論］

（秋元委員）

対象が色々あるので内容を変えての対応、また丁寧で利用者側を意識したユーザーフレンドリーな対応をしていただいた。容量市場の設計が大分遅れてタイトになっているなか、大変ではあるが対応いただいていることについて感謝する。

（穴井オブザーバー代理）

募集要綱に対する意見募集或いは利用者別の説明会や分かり易い情報発信など何れも丁寧に対応していただき感謝する。引き続き対応をお願いするが、分かり易い情報発信についてコメントする。容量市場がない現状で最近の kW 面や kWh 面の需給ひっ迫が発生しているが、容量市場の役割の重要さを再認識している。容量市場の果たす役割についてより多くの方に理解いただき、幅広く事業者に参加いただけるように引き続き情報発信をお願いする。

（事務局）

本機関としても更に充実した容量市場の説明等を事業者へ向けて発信すると共に、資料等の充実を図り、穴井オブザーバー代理より発言された通り容量市場の役割を伝えていけるように努力する。

（秋池座長）

7 月より開始の参加登録や 10 月の応札に向けて事業者の皆様が検討や準備をスムーズに進められるように説明資料の準備や制度内容の周知について事務局においては引き続き進めていただく。

（３）約定処理の概要について（本年度版の報告）

○ 事務局より、資料5に沿って、約定処理の概要について（本年度版の報告）について説明が行われた。

（秋池座長）

約定処理の概要については容量市場の重要な仕組みになるので理解の促進を丁寧に行っていただく。

以上